

# かしわ

## ろう学校に勤務しての2016夏

教頭 村野 茂

夏季休業に入った翌週に仙台に行く機会があり、2011年3月11日東日本大震災により壊滅的な被害を受けた名取市閑上(ゆりあげ)の復興の様子を見て来ました。現地の方から震災前後の写真、津波映像、現地の様子などを見たり、当時と現在の状況説明を聞いたりしてきました

沿岸に面した名取市閑上地域の人口は大震災前に5612名でしたが、名取市の犠牲者は1027名、そのほとんどが閑上地区(750名、不明41名)に集中したそうです。多くの人が犠牲になった主因は他地区と同様に、まさかここまで津波は来ないとの思い込みによる避難の遅れであるが、もう一つの要因は車で避難者が大渋滞に巻き込まれて身動きがとれないまま多数の人命が失われたことが挙げられていました。

閑上地区の現在は更地です。その中に水産加工団地が現在6社建設され操業中、今後さらに3社が進出予定です。そして現地再建を目指して造成工事中でした。今回の見学で感じたことは、自然災害に絶対はないということです。想定外のことが起こります。今まで大丈夫だったからは通用しないこともあるということでした。

最近、異常気象のために世界各地で大雨、大雪、異常気温等の影響による自然災害が発生しています。今年の4月には熊本地震、西日本の豪雨による土砂災害や浸水被害等も発生しました。今夏も水不足、熱中症や痛ましい落雷事故などのニュースがありました。夏季研修で聞いたところでは、雷は晴れていても、音が離れていても安心ができません。以前は音が離れていれば大丈夫と聞いていたのに、それでは安全が保障されない現実を知



### No. 8 平成28年9月2日 小学部のひょうたん

りました。過去の教訓を活かし、最新の情報を入手して行動できるようにしなければいけない。夏季休業が終わり学校が再開しますので、安全に対してより敏感にならないといけないと思いました。

今夏は財・リビックでの日本選手の活躍に一喜一憂した毎日でした。何かわかりませんがいろんな力をもらった気分です。9月にはパ・リビックもあります。次の東京リビックが楽しみです。

### 聴覚障がい教育のセンター的機能としての役割を担う本校の活動について

教諭 倉内 冬樹(支援教育コーディネーター)

本校のセンター的機能として、教育相談、通級指導、研修会・相談会等の取り組みがあります。教育相談は0歳から2歳の乳幼児相談と3歳から18歳を対象とした教育相談があります。保護者から直接連絡を受ける場合と、医療機関、関係諸機関から連絡を受ける場合があります。乳幼児相談については相談案内のパンフレットを三浦連合耳鼻咽喉科医会、横須賀・三浦小児科医会、横須賀・三浦産婦人科医会の名簿にある病院に送付しています。就学後、学校を通して相談の依頼を受ける場合もあります。教職員を対象に個々の児童生徒の指導に関する助言・情報発信も行っています。

毎年8月に「聴覚障がい理解研修会」を実施し、聴覚に障がいのある子どもに関わる先生方をはじめ、関係諸機関の皆様に参加していただいています。前半は講演会を、後半は話し合いを行っています。また、毎年1月には「ことばと聞こえの相談会」を開催しています。活動内容としては、言葉や聞こえに課題のある子どもの教育相談、難聴についての講演会・情報提供、フォローのための

## 関東聾学校卓球大会の様子

教諭 勝 康雄

8月22日～24日、山梨県甲府市で行われた第65回創立記念関東聾学校卓球大会に、中学部1年生が参加しました。


台風9号の影響で、多くの電車が運休になりましたが、私たちが乗車したのは、運休前最後の特急でした。

幸い、会場周辺は小雨で、台風には勝ちました。

初日は練習、開会式、65周年記念式典が行われ、山梨県のゆるキャラと、山梨県にあるサッカーチームのマスコット、地元の高校生がダンスなどを披露してくださいました。なお、3校が台風の影響で会場に来られませんでした。

試合の方は、個人戦だけでなく、横浜市立ろう特別支援学校高等部女子2名と合同チームで、団体戦にも出場することができました。

団体戦は3チームの予選リーグで、初戦は高等部2年生を相手に、第1ゲームで8点取りましたが、サービスが多く、負けてしまいました。2戦目は順番が回ってきませんでした。でも、初めての公式戦を経験することができ、試合の雰囲気になれることができました。そして何よりも、みんなで戦うという団体戦の楽しさを味わうことができました。

個人戦は2回戦からの登場でしたが、 中学部3年生の相手は、サービス(サブ)が上手で、なかなか得点をあげることができませんでした。しかし、最終ゲームで、相手のサービスをリブすることができるようになりました。

今回の経験を生かし、11月の関東聾学校中学部卓球大会で勝てるように、練習内容を工夫しています。

応援していただき、ありがとうございました。

訂正します。

8/25の避難訓練時に「火を消して避難」と話しましたが、現在、ガス器具は震度5以上の地震の時はガス栓の元が自動で閉じるそうです。逆に消火をすると危険な場合があるので、子どもは火の元には「近づかない」と家庭でお話ください。よろしくお願ひします。

※9月の学校の予定については、学級・学部便りをご覧ください。

各種相談を行っています。

また市内の小中学校に対して騒音緩和環境作りのため「テニール」の情報提供支援も行っています。

### 第3回世界ろう者陸上選手権大会に出場して

教諭 小松 彩香

私は100mと400mHに出場しました。私の目標は「教え子にメダルをかけてあげること」でした。

最初に行われた競技は100mでした。自分の専門は400mHなのですが、100mも最近自己ベストを更新し、メダルを狙えるタイムだと言われていました。予選でさらに自己ベストを更新し、「いける!」と思っていましたが、決勝では思うように走れず、5位でした。悔しかったけれど、すぐに400mHに切り替えました。

400mHは、400mの走力、体力、ハードルの技術が必要になってくるので、大学生の時と違って時間が限られている中、本当に意味のある練習になるよう1本1本集中して取り組んできました。しかし、世界大会ギリギリまで記録が伸びず、心が折れそうになり、涙を流すことが何度かありました。

400mHの決勝でスタートラインに立った時に真っ先に思い浮かんだのは、教え子の顔でした。そして次々と横須賀ろう学校の子も達や先生、家族、コーチの顔が思い浮かんできました。

決勝は良いスタートを切ることができ、流れも良かったがやはり、苦手なラストのところ一気に抜かれて、6位入賞となりました。

「教え子にメダルをかけてあげたかった…」と初めてその場で泣き崩れてしまいました。混戦でメダルが本当に目の前にあっただけに、悔しい気持ちでいっぱいでした

でも100mと400mHいずれも自己新記録、日本ろう新記録を更新することができたので、自分の今の力をすべて出し切ることができたのではないかと思います。

ここまで一生懸命になれたのは、教え子のおかげでもあるし、支えて下さったコーチ、家族、横須賀ろう学校の人達のおかげでもあり、感謝の気持ちでいっぱいです。応援していただき、本当にありがとうございました。